

1970年4月にアメリカで始まった第一回アースデイ（地球の日）は、その後の地球環境保護運動に対して重要な意味を持つことになる。環境に対する関心は1800年代の後半に天然資源の濫獲に対する警鐘として、シエラ・クラブを創設したが、その団体活動では、有限な資源の保護を目ざしていた。1900年代の半ばには、大気や水の汚染が人間の健康を害することから、人間をとりまく環境に重点がおかれ、問題は地方から都市へと回った。そして近年20世紀の後半は、過剰な生産と、過大な消費により生態系の破壊が生ずるようになり、改めて、生態主義と呼ばれる運動が盛んになって来ている。以前は人間の利益を中心とした地球環境への対策であったのが、今や全生物系を対象としたものにならざるを得なくなっている。

世界各国の運動の中で注目すべきは、グリーンピースの活動であろう。会員は全て個人で構成され、一切の企業の参加を許さず、又陳情や嘆願によらず、直接行動による抗議によって、地球環境破壊となる行為を阻止しようとしている。当初の活動に基づく核への反対は勿論のこと、オゾン層破壊や地球温暖化となる原因を作る企業や、熱帯雨林を伐採する産業には鋭いほこ先を向けている。

イギリスのチャールス皇太子を頭に世界の11の著名なホテルは、共同目標として、地球環境保護のための具体的な活動の場を設定している。1993年に始まったこの活動は、同一業種の人々が、世界のネットワークの中で、環境文化の確立や、廃棄物処理、エネルギー、水や空気の汚染防止、製品の購入方法の工夫、毒物や化学薬品、洗剤の管理等で、情報交換と実行を目的としていることに価値がある。

今後はグリーンG N Pとか、ラベリングと呼ばれる環境指標が我々の生活の中に現われ、再利用、再生、ぜい肉落しが、地球を救う手段の一つとなる。